



令和6年1月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

田牛地先の磯焼け調査

黒潮大蛇行の影響により伊豆半島沿岸ではカジメの磯焼けが発生しています。当場ではカジメ群落の状況を把握するため、下田市田牛地先（母根、一つ石）で定期的に潜水調査を行っています。昨年11月の調査で、既に母根ではカジメが全く見られず、一つ石ではカジメ幼体が1㎡当たり104個体確認されました。一方、今年12月の調査では、やはり母根ではカジメが全く見られず、一つ石で確認されたカジメ幼体は1㎡当たりわずか11個体でした。

このことから、母根に続き一つ石でもカジメが急速に消失していることが明らかになりました。一つ石では潜水中に多数のブダイが確認されており、ブダイによる食害がカジメ消失の要因と考えています。

今後、低水温期から春にかけて、新たなカジメの芽立ちと幼体の成長を期待します。



母根 (左)2022年11月、(右)2023年12月



一つ石 (左)2022年11月、(右)2023年12月

長期漁海況予報会議より

12月20～21日に太平洋いわし類、マアジ、さば類長期漁海況予報会議が開催され、2024年1～6月の漁海況予報が採択されました。

黒潮大蛇行は今後も継続し、本県周辺海域（熊野灘～遠州灘～相模湾）の水温は「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある」と予測されました。各魚種の来遊量予測は下表のとおりで、マアジについては前年を上回ると予測されています。内容の詳細については水研機構ホームページをご覧ください。

https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/pres/s/pr2023/fri_20231225_ukiuo-pac-2nd.html

魚種	来遊量予測
マイワシ	房総以北では前年並～下回り、相模湾以西では前年並となる海域が多い。
カタクチイワシ	引き続き低水準で、紀伊水道外域以西では前年を下回る海域が多く、熊野灘以東では前年並の海域が多い。
ウルメイワシ	全体として前年を上回る。
マアジ	相模湾では前年を上回り、熊野灘以西では前年並～下回る海域が多い。
マサバ	低調であった前年並
ゴマサバ	低水準

小学生が分場施設を見学

12月5日、地元白浜小学校の3年生8名が施設見学のため来場しました。当日は小雨の降るあいにくの空模様でしたが、伊豆の磯で捕れる生物と磯根漁業についての講義と、イサキとマダイの餌やり体験をしてもらいました。

後日皆さんから心のコモったお礼状をいただきました。ありがとうございました。

今回の施設見学で、地元の漁業に対する関心が少しでも高まっていたらと思う今日この頃です。



イセエビのオスとメスわかるかな？

1月の予定 ●相模湾漁海況研究協議会（17～18日） ●漁業士認定式（23日）
●静岡県水産振興審議会（25日） ●磯焼け対策全国協議会（26日 東京） ●潜水調査（稲取、白浜）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

当場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。